

マイマナーズ 食卓彩菜

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございます。

号 3月 29年 平成
品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、サービスマン等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがき41がございましたら、同封のはがきVol.などで、何なりとご意見を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

食卓彩菜
「東日本大震災」から6年、今年には震災で命を失われた方々の七回忌にあたります。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げます。また、ご遺族様にとりましては、悲しみはなかなか癒えるものではない事と存じますが、少しでも心穏やかにありますようにお祈り申し上げます。

久しぶりに被災した地域を訪れてみると、工事の重機が入っている所、「瓦礫」がれきはないものの手つかずの所、町の中には新しい建物が並んでいる所もあり、復興には地域に格差が出ているのではないかと感じました。その中で、山田湾のかきの養殖棚が見えた時には、感慨深いものがありました。

南北の半島が円状に海を取り囲む山田湾は、湾口が500mと狭い上、最大幅4kmの広い湾内が波の威力を減殺する為、津波に強いと言われておりました。しかし、その山田湾に面した山田町は、津波の被害が大きく火災も発生しました。知人のUさんは、当時息子さん山田町に滞在しており、迎えに行った時に通ったトンネルの上が燃えていて、「サーカスの火の輪くぐりの様で、生きた心地がしなかつた」と話し、無事に帰ってきた当時中学生の息子さんは、燃えている町を高台から「ただ、呆然と見ていることしかできなかった」と話していたこと、学校帰りの

に私の息子の友人が「津波で」行方不明になっていた山田町のじいちゃんが昨日（遺体で）見つかった」と息子にぼつりと話し、帰宅した息子がうつむきながら私にその話をしたことも思い出します。

私は震災の年に、山田町と交流のある知人に誘われ、支援で送る野菜と米作りを、その春からお渡しする初冬までお手伝いをさせて頂きました。農業経験の無い私が、草刈機で田んぼのくろ（田んぼの境界にある土を高くした場所）や畔の草刈りをし、田植えから稲刈り、野菜は苗から育て、薬剤散布等収穫する迄様々な作業をさせて頂きました。地域の婦人部の料理講習会にも参加、昔ながらの知恵も教えて頂き、被災地支援と言いつつも、貴重な体験をさせて頂きました。その年の初冬に、収穫

の車に乗り込む私達を追いかけてきて「どこのどなたか存じませんが、本当にありがとう」と深々と頭を下げたおばあちゃんの姿に目頭が熱くなり、「じいさん、いろいろ経験させて頂きました」と心の中でお礼を言い、帰りの車の中で仲間と「あのおばあちゃん、私達を『かさ地蔵』のように思ったかもね」と話しながら、私達の方こそ笑顔にさせて頂きました。あの時のおばあちゃんは、お元気でいらっしやるかなあと文章を書きながら思っております。

被災による避難者の数は、年々減少傾向にあるものの、頑張っている全ての方に支援が届いている訳でもありません。3月になると、これからも震災が風化しないように語り継いでいかなければと、強く思います。

「食べて健康に」をモットーに、皆様の健康づくりのお手伝いをさせていただきます。引き続きご愛顧の程、宜しくお願いいたします。